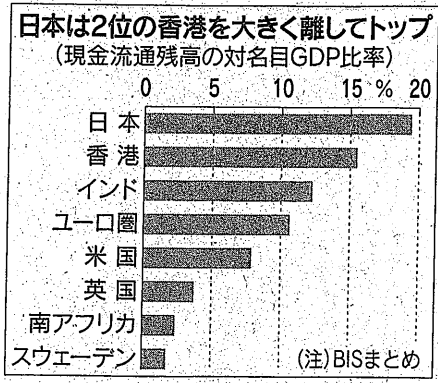


# 現金主義 日本が突出

## 日銀分析 安心・匿名性に支持



世界の主要国・地域のなかで日本の現金主義が突出している。国際決済銀行(BIS)の2015年時点の最新統計をもとに日銀が分析したところ、日本で流通する現金残高は名目国内総生産(GDP)の19.4%となり、2位の香港(15.5%)を大きく引き離してトップだった。現金決済やタンス預金の比重が大き

日本の現金比率は10年前の05年(16.7%)から一段と上がり、現金主義は強まっている。他の国や地域と比べた日本の特徴として「最高額面の銀行券である一万円札の占める割合が圧倒的に高い」(日銀)ことがあるという。

使いきることがない「安心感」やクレジットカード番号などを伝える必要がない「匿名性」から、日本では買い物などで決済する際に現金を利用する人が多い。加えて13年4月以降の日銀の大

規模緩和を受けた金利の低下で、銀行預金よりも自宅で現金を保有するタンス預金が増えている面もある。日本の治安が主要国・地域のなかでも安定しており、現金の持ち運びや保有に危険を感じ

にくいことも現金主義が続いている要因だ。ユーロ圏の現金流通残高の名目GDP比率は5位の10.6%、米国が9位で7.9%だった。最も低かったのはカード決済などのキャッシュレス

化が進んでいるスウェーデンで1.7%。日本の比率はスウェーデンの11倍以上だ。

金融政策の効果が波及する際、銀行預金金利などの低下が消費や別の資産への投資を促すという

経路がある。金利の変動が影響しにくい現金の保有が増え続けると「金融政策の効果が伝わりづらくなる可能性がある」とSBCフレンド証券の岩下真理氏という指摘もある。